

水戸芸術館音楽誌[ヴィーヴォ]

vivo

5 MAY 2002



CONTENTS

5月の公演の告知誌 1
最近の公演から 3
ネットまで! 5
インフォメーション 8



アンジェラ・ヒューイト

「バッハは、わたしの中でとても大きな場所を占める存在です」 アンジェラ・ヒューイト、水戸芸術館だけのリサイタル!

5 / 1 2 (日) アンジェラ・ヒューイト ピアノ・リサイタル

「もう一人の女性アンジェラ・ヒューイトというピアニストも好ましいバッハをひく。というより私は彼女はバッハのCDでしか知らないのだが、大きな目をパッチリ開けて、考えたことを正面からはっきりという人のような演奏をする。それは、《ゴルトベルク》で、舞曲に源泉を持つ変奏のときはその根本のスタイルを保存するように慎重にひいているのを見ても、よくわかる。その点で、これは教育の高い演奏ともいえよう。頭脳明晰の美人で、腕もすぐ達人。とはいえ、一種の優雅と詩情あふれる演奏もすることは、彼女の《フランス組曲》などをきくとよくわかる。繰り返して丁寧やりりヒテルが喜ぶだろう 二度目は少し弱く、より秘めやかにひくが、そういう時でも明晰さはちっとも変わらない。」

吉田秀和
(音楽之友社『レコード芸術』2000年12月号
ピアノでバッハを弾いた人たち からの引用)

1950年代の半ば、グレン・グールドの演奏するバッハ ゴルトベルク変奏曲 の画期的な名盤が登場したとき、あまりの新しさに非難や拒絶反応が巻き起こる中、その意義を敢然と支持したのが吉田秀和でした。それから半世紀、ふたたび吉田の言葉に導かれて、ひとりのすぐれた「バッハを弾くピアニスト」が私たち日本の聴衆の視界に姿を現しつつあります。そのピアニストの名は、アンジェラ・ヒューイト。

ここ数年の間に、英ハイペリオンから立て続けに発表しているバッハ:鍵盤音楽作品のアルバム(文末のCDリストをご参照ください)を通じ、急速に世界的な評価を高めつつあるヒューイト。日

を追って高まる来日公演への期待に、水戸芸術館がお応えします。芸術館独自の招聘による、たった1回の来日公演です。プログラムは、バッハ: イギリス組曲 第3番、ラヴェル: 夜のガスパール、クーブラン: 組曲 第6番、そして再びラヴェル: クーブランの墓。以上4曲に即しながら、ヒューイトというピアニストの人と音楽の魅力を、英『グラモフォン』誌2001年9月号に掲載されたヒューイトへのロング・インタビューにおける彼女の発言の抜粋を交えて紹介しましょう(訳は矢沢)。この号、表紙にヒューイトの美しい写真をフィーチャーし、彼女に「私たちの時代のバッハ・ピアニスト」という賛辞に満ちた見出しを捧げています。

ピアノを超えて / バッハ

チェンバロ演奏に押され、近年、ピアノによるバッハ演奏はやや旗色が悪いようです。そんな中、前述『グラモフォン』誌の見出しが示す通り(さらにインタビューの見出しは“Redefining Bach バッハの再定義”)、ヒューイトはピアノによるバッハ演奏の旗手としての賞賛を一身に集めています。彼女にとってバッハの音楽は3歳のころからその音楽に親しんでいた、「自分の中でとても大きな場所を占める存在」。では、果たしてどんなピアニストのバッハ演奏が、彼女の演奏に影響を与えたのでしょうか? 彼女はインタビューではロザリン・テュレックの演奏を「楽曲の構造、つまり音楽がどこへ向かうのか知るためによい」と評価し(その一方で「でもわたしにとっては、生き生きとした感じが足りなかった!」とも言っていますが)、イェルク・デムスの演奏について「人

間的で好き」と述べています。気になるのはグールドですが、ゴルトベルク の旧録音を愛聴し、その「明晰さ(clarity)」「大胆さ(fearlessness)」に多に啓発されつつ、こう思ったそうです。「でも、これはグールドの流儀。どう弾くべきかは、自分たちの考えるやり方でやろう”...こんな風に言えるのも、わたしがカナダ人だからなんです!」そう、ヒューイトは奇しくもグールドと同じカナダ出身なのでした。

「構造の把握」「人間的」「明晰さ」これらの言葉は、そのまま彼女の演奏に寄せられる評価でもあることに気づかされます。しかし、それ以上に彼女が影響を受けたのが 師のジャン・ポール・セヴィアを除けば オタワ教会のオルガニストを務めた父だったというのも見逃せません。「彼のオルガン演奏から、アーティキュレーションとフレーズングに関するあらゆることを学びました。指づかい、substitution 鍵盤の上で静かに指を変える技術、わたしはペダルをとてこ控えめにしか使わないから、いつもこうしたことをやっています。これは、オルガニストの要領なんです。」さらに、チェンバロやクラヴィコードといった鍵盤楽器への研究もおこたまりません(生徒が頼りないタッチでバッハを弾いているときには、彼女はチェンバロを弾くことを勧めるそうです)。そして彼女のめざすバッハ演奏は、次のような言葉に集約されるでしょう「ピアノでバッハを弾いていることなんて、ちっとも考えていません。もっと、人間の声や、ヴァイオリンや、オーケストラによる演奏をイメージしながら弾いているんです。」

イギリス組曲 は今年の3月に録音したばかりのレパートリー。まだCDでは聴けない、彼女の最

新の成果がライブで聴けるというわけです。

踊り / クーブラン

「踊ることをやめなくてはならなかった時には、泣いてしまったわ」 子どものころクラシック・バレエに熱中していたヒューイットの回想です。しかし、その頃に得た身体感覚は、現在の彼女の演奏に、生き生きとしたリズム感覚を送り続けています。舞曲のリズムが重要な役割を占めるバロック音楽においてそれがどれほど有効かは、そのバッハ演奏からも明らかでしょう。そして今回注目されるのは、バッハと同時代のフランスの音楽家、クーブランのクラヴサン(チェンバロ)組曲が選ばれていること。これらの小品たちが、バッハに負けず劣らず舞曲のリズム感覚を必要とすることは言うまでもありません。さらに、これらピアノではまづめったに弾かれないレパートリーに、ヒューイットがいったいどんな解釈で臨むか期待されます。かつてグールドがバードやギボンスのヴァージナル曲に瞠目すべき名演を刻んだように、彼女のクーブラン演奏(もちろん、まだCDはなし)はバロック鍵盤音楽の演奏史の新しいページを開くことになるかもしれません。“恋やつれ” “神秘的な障壁” “田園詩” イマジネイティブな標題と内容を持つクーブランのクラヴサン曲がどんな変身を見せるのか...期待はつきません。

色彩と詩情 / ラヴェル

私たちがまだヒューイットのディスクで耳にする

機会のないもう一人の作曲家、ラヴェル。彼女はラヴェルのピアノ曲録音を開始したばかりで、すでに鏡と夜のガスパール の近日発売が予定されています。実は、彼女にとってラヴェルはバッハに次ぐ大事なレパートリー。「ラヴェルもまた、真底から深く、舞曲に影響されています。それからわたしは、彼の音楽の色彩と詩情が大好き。バッハと同様に完全主義者なのも、好きなところなんでしょうね。」 いかがでしょう。この言葉の中に「舞曲」「バッハ」という重要な単語が出てきます。そしてクーブランの組曲と対になるように、ラヴェルのクーブランへのオマージュたるクーブランの墓が組み合わされる名曲が有機的に結び合わされた、みごとに考えぬかれたプログラムではありませんか。もちろん、ラヴェルの色彩と詩情と

いうより幻想 が絢爛豪華に繰り広げられる超難曲 夜のガスパール も要注目です。

こうしてみると、今回彼女が携えてきたプログラムは、現在のヒューイットの演奏を最高の形で楽しめるものと断言してさつかえないでしょう。繰り返しになりますが、今回、日本でヒューイットの演奏を聴けるのは、水戸芸術館のみ。「もし演奏するとき完璧に集中していれば、聴き手もそうなるでしょう。そして聴き手が集中してくれることが、今度はわたしを助けてくれるんです。」 聴衆とのコミュニケーションを何よりも重んじるこのピアニストに、ひとりでも多くの方が出会っていただきたい、と願っています!

《矢沢》

アンジェラ・ヒューイットのディスク

(すべてハイベリオン・レーベル。東京エムプラスから輸入販売) は『レコード芸術』推薦~準特選盤

バッハ:ゴルトベルク変奏曲 (MCDA67305)

バッハ:平均律クラヴィア曲集 第1巻 (MCDA67301/2)

バッハ:平均律クラヴィア曲集 第2巻 (MCDA67301/2)

バッハ:フランス組曲 (MCDA67121/2)

バッハ:インヴェンションとシンフォニア (MCDA66746)

バッハ:6つのパルティータ (MCDA67191/2)

バッハ:イタリア協奏曲 他 (MCDA67306)

主よ、人の望みの喜びよ バッハ・ピアノ・アレンジメント (MCDA67309)

メシアン:8つの前奏曲 他 (MCDA67504)

*すべて水戸芸術館ミュージアムショップ「コントロールポアン」で扱っています。



写真は「グラモフォン」誌から

WAGNER in MITO ヴァーグナーの名旋律を、最高のキャストでどうぞ

5 / 19 (日) ヴァーグナーの祭典 オペラの花束をあなたへ 14

畑中良輔企画による人気シリーズ「オペラの花束をあなたへ」。1990年の開館以来回を重ね、モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニの名作のハイライトや、ベルカント・オペラ、フランス・オペラなどの聴きどころをご紹介します。コンサートホールATMの親密な空間で、名歌手たちの歌声に浸り、オペラティックな興奮と陶酔を味わった方々も多いでしょう。

さて、ファンの皆さまなら、まだこのシリーズで取り上げられていない有名なオペラ作曲家がいることにお気づきかもしれません。そう、19世紀後半に活躍したドイツの大作作曲家リヒャルト・ヴァーグナーをまだ取り上げていなかったのです。

そこで今回は「ヴァーグナーの祭典」と題し、彼の5つのオペラの聴きどころを最高のキャスト、合唱、器楽陣の演奏でたっぷりとお聴きいただきます。

5つのオペラ徹底ガイド

何の予備知識もないままコンサートに出かけても、オペラの魅力の一端に触れられ、存分にその音楽を楽しめるのが「オペラの花束」シリーズの特色です。しかし、造形芸術・演劇・音楽など芸術

の諸要素が一体となった「総合芸術」としてのオペラを唱えたヴァーグナーを楽しむにあたっては、不安に思われる方もいらっしゃるかもしれません。前もって、作品の背景や特色、あらすじなどを知っていたほうが確実と思われる方は、以下の記事をご参考にどうぞ。

さまよえるオランダ人

婚礼 (未完) 妖精 恋愛禁制 リエンツィにつづくヴァーグナー5作目のオペラ。中世の幽霊船伝説を題材に、ヴァーグナー自身が台本作成。番号オペラ[モーツァルトのオペラを思い起こせばお分かりのように、劇を進行させる説明的な部分(レチタティーヴォ)と、感情を吐露する部分(アリアや二重唱など)が区別されていて、アリアや二重唱など「楽曲」の部分には通し番号がつけられているオペラ]の影響を残しつつも、後々の発展を十分に予告している作品。音楽的には、序曲や水夫の合唱に代表されるように、とにかくダイナミックな魅力が満載で、聴き手を嵐に荒れ狂う波間に引きずり込むような迫力があります。ヴァーグナー自身、このオペラを作曲する前、海路バ

りに向かう途中暴風雨に会い、ボレア島に緊急上陸したことがあります。そのときの体験がこのオペラの未曾有の迫力に貢献しているようです。[あらすじ]オランダ人の船長は、貞節を捧げる女性が現れるまで、荒海をさまようことを運命付けられている。7年に一度だけ許されている上陸の折、ルルウェーの海岸にたどり着いたオランダ人は、ルルウェー船長ダーラントの娘ゼンタと出会い、それが念願の女性であることを知る。ゼンタは、許婚の獵師エリックの熱烈な求愛を退け、オランダ人への貞節を死によって示す。オランダ船は難破し、2人の純愛は天国で成就する。

タンホイザー

オランダ人の次に書かれたオペラ。中世に実在したミンネゼンガー(吟遊詩人)の歌合戦の説話に基づき、ヴァーグナー自身が台本作成。清廉な祈りと愛欲渦巻く官能の両極世界を、音楽が雄弁に表現していきます。序曲のほか、歌の殿堂 巡礼の合唱 エリーザベットの祈り 夕星の歌 タンホイザーのローマ語り など、ハイライト・シーンの多彩さではヴァーグナーの作品中随



写真左から；
畑中良輔
小濱妙美
田中 誠
大島幾雄

一と言えるでしょう。パリ初演では、大スキャンダルになったものの、詩人ボードレーが擁護し、以後パリの文壇・音楽界は一気にヴァーグナーに傾いたことでも有名な作品です。

[あらすじ]ミネゼンガーのタンホイザーは、乙女エリーザベトと清い愛情を結んでいたにもかかわらず、官能を求め、愛欲の女神ヴェーヌスの虜になる。歌合戦で、純愛を嘲笑い、官能の喜びを称えたことで、タンホイザーはローマへの懺悔の旅に出される。法皇の許しを得られずに帰ってきたタンホイザーは、またヴェーヌスのもとに戻ろうとするが、友人ヴォルフラムが引き留める。最後は、エリーザベトのわが身を犠牲にした祈りにより、タンホイザーの魂は救済される。

ローエン格林

タンホイザーの次に書かれたオペラ。中世の聖杯騎士の伝説に基づき、ヴァーグナー自身が台本作成。秘密と謎につつまれた聖杯の騎士を主人公に据えているだけあって、夢幻的な雰囲気濃厚にたどるオペラ。後にヴァーグナーのパートナーとなるバイエルンの若き国王ルートヴィヒ2世がとりわけ好んだオペラとしても知られます(ちなみに、ルキノ・ヴィスコンティ監督による貴族趣味が横溢した映画「ルートヴィヒ」も必見です)。この作品あたりから、レチタティーヴォとアリアの区別がほとんど無くなり、ヴァーグナー自身「無限旋律」と呼ぶ、休みなく音楽が続く様式へと移行しています。

[あらすじ]テルラント伯爵から弟殺しの汚名を着せられた王女エルザは、夢で見た白鳥に乗った騎士ローエン格林の出現によって救われる。ローエン格林は、彼の素性を決して尋ねないという条件でエルザと結婚。しかし、伯爵の妻オルトラートのそそのかしによって、エルザはどうしても夫の秘密を知りたくなり、禁を破ってしまう。するとローエン格林は聖杯の騎士であることを高らかに告げ、聖杯の城へと去っていく。

トリスタンとイゾルデ

4つのオペラからなる巨大な舞台祭典劇 ニューベルングの指環の作曲を一時中断して書き上げられた作品。中世の詩人シュトラースブルクの叙事詩を題材に、ヴァーグナー自身が台本作成。トーマス・マンの短編小説「トリスタン」で、ある夫人が前奏曲を聴きながら“死人のような”恐怖を注ぎ込まれたような“表情になっていくのが描かれています。これこそこの作品に初めて接する何の予備知識もない、素朴な聴衆の反応ではないでし

ょうか。どこにいるのかわからなくなりそうな半音階進行と転調の連続。これを魅力と感じ出したら、あなたは立派な「ヴァグネリアン」の一員です。

[あらすじ]アイルランドの王女イゾルデは、イングランドのマルケ王の妃となるため、騎士トリスタンに護衛され、船出する。イゾルデは、かつて婚約者をトリスタンに殺されたことで彼を憎んでおり、毒を飲ませ、自分も死のうと考えるが、あやまって愛の媚薬を飲んでしまう。強烈な相愛関係に陥った2人の逢引はやがて発覚し、トリスタンは王の家臣によって討たれる。従者の助けで一旦逃れたトリスタンだが、その傷がもとで絶命。駆けつけたイゾルデも、愛をたたえつつ息絶える。

ニュルンベルクのマイスタージンガー

指環の作曲を中断中、トリスタンの次に書かれた作品。史実と、E.T.A. ホフマンらによるいくつかの史話をもとに、ヴァーグナー自身が台本作成。初期の作品を除けば、ヴァーグナー唯一の喜劇的作品。ヴァーグナーは、新しい芸術の擁護者ザックスに彼自身を、因襲的で意地が悪く、才能の乏しいベックメッサーに、当時激しく対立していた批評界の大御所ハンスリックを重ね合わせたといわれます。音楽的には、調性崩壊の寸前とも言われる先鋭的なトリスタンとは違って、八長調を基本とした全音階的な音の進行が、何とも公明正大な民衆劇を演出しています。

[あらすじ]明日の歌合戦で優勝したものが、金細工師ポグナーの美しい一人娘エヴァと結婚できると聞き、歌の規則を知らない騎士ヴァルターは失望する。しかし、ヴァルターの自由奔放な歌に魅力を感じた靴屋の親方ザックスは、自らも想いを寄せるエヴァをこの若者にゆずろうと考える。歌合戦で、俗物的なベックメッサーに勝利したヴァルターは、見事にエヴァとマイスターの地位を手に入れる。

キャストの顔ぶれ

「ヴァーグナーのCDだったら、管弦楽曲集なら持っている」という方も結構いらっしゃるのではないのでしょうか。たしかに、さまよえるオランダ人 や ニュルンベルクのマイスタージンガーの序曲・前奏曲は、重厚多彩なオーケストレーションで耳を楽しませますし、ローエン格林 第3幕への前奏曲や、ヴァルクューレの騎行(ヴァルクューレ 第3幕冒頭のシーン)などは、オーケストラだけでも十分な劇的昂揚感を聴き手に与えてくれます。

しかし、ヴァーグナーの魅力の重要な一要素として、歌の旋律の独自性を忘れることは出来ませ

ん。さまよえるオランダ人 など初期作品に見られる比較的明確なレチタティーヴォとアリアの様式は、後期の作品になるにしたがって影をひそめ、半ば歌い、半ば語るような旋律が延々とつづく「無限旋律」の様式へと変化していきます。このコンサートでは、ゼンタのパラードからイゾルデの愛の死まで、その様式の変遷をじっくりと味わうことができます。

キャストには、当代最高の布陣をそろえました。ソプラノの小濱妙美は、名歌手エリーザベト・シュヴァルツコプフにその才能を見出され、ドイツのブラウンシュヴァイク劇場と専属契約を交わしたこともある国際的実力の持ち主。1997年、新国立劇場オープン記念公演「ローエン格林」にエルザ役で出演し、わが国トップのヴァーグナー歌手として力強い歌声を響かせました。水戸芸術館には、98年の「ニュー・イヤー・コンサート」に出演し、抒情味豊かなシューベルトを聴かせてくれています。

テノールの田中誠は、ヘンデルのオペラから現代日本の創作オペラまで幅広いレパートリーを誇る中堅実力派。スラリとした長身から発せられる張りのある歌声は、何を歌っても魅力的に響きませんが、特にヴァーグナーのオペラにおける騎士役にはうってつけと言えるでしょう。水戸芸術館には、96年のオペラ「さんせう太夫 二郎役」で出演しています。

バリトンの大島幾雄については、もはやご紹介は不要でしょう。その艶やかで奥深い歌声は、わが国トップの「ヴェルディ・バリトン」としてすでに多くの水戸の聴衆の皆様にもおなじみです。一方、そのテキストの読みの深さ、役作りの見事さはヴァーグナーの諸役でも素晴らしく発揮され、97年の新国立劇場「ローエン格林」(テルラント役で出演)では、演出家ヴォルフガング・ヴァーグナーから絶賛されたそうです。その名誉あるヴァーグナー歌唱がもうすぐ水戸でも聴けます。

合唱を受け持つ茨城県合唱連盟(合唱指導:鈴木良朝)は、「合唱セミナー」「水戸の街に響け!」300人の第九」など、水戸芸術館の合唱関係の催しでは欠かせない存在。当日は、約100名からなる特別編成の大合唱団を、企画者・畑中良輔みずから指揮します。

また、歌を支える器楽伴奏には、生田美子、宮下朋樹(以上ピアノ)、室住素子(オルガン)、千田悦子(ハーブ)が出演。2000年度奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第1位を獲得した生田美子が、ヴァーグナーの重厚なオーケストラ・スコアをどう編曲するかも大いに注目されます。

《関根》

茨城ゆかりの音楽家たちが、意欲に満ちたステージをお届けします。

5 / 17 (金) 茨城演奏家連盟会員によるアーリー・サマー・コンサート



1994年、茨城演奏家連盟は現会長佐藤篤さんの呼びかけで設立された。「出身音大や、師事した先生などにとられない、演奏家どうしが互いに支え合う新しい『つながり』が必要だと思いました」と佐藤さんは語る。それが地域の音楽文化の向上につながる、という希望があるのだ。その声に茨城を中心に活動する音楽家が賛同し、これまでに県内外での自主公演のほか、公開セミナーの開催、会員のリサイタルの後援など着実な歩みを続けてきた。佐藤さん自身も、茨城大学教授を勤めながら、ピアニストとして活躍。水戸芸術館にも過去3度出演している。そして今回、このコンサートを企画した。

第1ステージは市内の専門学校で講師をつとめるソプラノ綿引陽子さん。モーツァルトの演奏会用アリアから、K 78、K 383、K 582の3曲を歌う。「モーツァルトは無駄な音がなく誤魔化しがきかない。しかも第1ステージというのはコンサートの雰囲気を決めてしまう。綿引さんは敢えてそれに挑もうというのです」と佐藤さん。ピアノ伴奏は谷田部ひさみさん。水戸芸術館には「茨城の名手・名歌

手たち 第6回」以来の登場となる。

第2ステージは、クラリネット兼氏規雄さんが登場。これまでもソロ・リサイタルや代表を務める水戸ソリスト室内アンサンブル演奏会で水戸芸術館に出演している。曲目はシューマン 幻想小曲集 とミヨー ピアノ、ヴァイオリンとクラリネットのための組曲 が選ばれた。「兼氏さんは、歌謡性と抒情性の高い 幻想小曲集 と器乐的で技巧的な 組曲 はいわば対極に位置する、と言います。お客様には、それぞれ性格の異なったクラリネットの魅力を楽しんでいただきたいのです」と、佐藤さんは兼氏さんの選曲意図を伝えてくれた。共演するヴァイオリン関口佳代さんは市内音楽教室の講師。またピアノ長松谷幸生さんは、東京を中心に演奏活動を行っている。

第3ステージはウィーンを中心に活動中のピアニスト星子知美さん。シューベルトの ピアノ・ソナタ イ短調 D.784 を演奏する。「シューベルトの音楽、メロディーの一節一節が、ウィーンやその近郊の景色であり、空気であり、ウィーン人の気質そのもの」とは星子さん自身からのメッセージ。佐藤さんも「星子さんにとってシューベルトのソナタはライフ・ワーク。今後は全曲演奏に取り組んでくれるのではないのでしょうか」と期待を語った。

第4ステージは、ブラームスの ピアノ三重奏曲 第1番 ロ長調。杉田せつ子さんのヴァイオリンと石川眞佐江さんのピアノ、そして山本徹さんのチェロによって演奏される。「ロ長調というのは、明るく、幸福に満ちていて、ロマンティックな調性です。けれど、ヴァイオリンにとっては非常に弾きづらい調でもあります。杉田さんはそれをクリアして取り上げてくれました」と佐藤さん。杉田さんは現在、若手演奏家によるオーケストラ、「ギャラリー・ミュージック」でコンサートマスターを務め、あらゆるジャンルの音楽に挑戦している。また石川さんは、昨年「茨城の名手・名歌手たち 第12回」に出演した東京芸大・大学院生。山本さんも芸大3年生の若きチェリストだ。

茨城演奏家連盟会員は現在27名。佐藤さんは言う。会員の共有する思い、それは「音楽家であることの誇り」だ、と。今回出演するベテランから若手まで9人の演奏家が繰り広げる4つのステージには、彼らの新たな試み、そして挑戦が感じられる。それがコンサートホールに音楽となって表現される時、佐藤さんの言葉も証明されるに違いない。

《松田》

間違いなく「次代の名手」の登場です！

5 / 26 (日) 中村 創 ギターリサイタル



いつの間にこんなに逞しく、堂々とした大人になっていたのだろう。「小さな聴き手のためのコンサート」に登場したのが1994年だから、あれからもう8年。当時中学1年生だった中村創さんは20代を迎え、今、ひとりの「ギタリスト」として羽ばたこうとしている。

中村さんがギターを始めたのは5歳のとき。ギター教室を開いていたお父様(中村俊三氏)が、最初の先生だった。以後お父様からテクニックと古典レパートリーの基礎をじっくり学び、小学校3年生から中学校2年生にかけて学生コンクール6年連続2位受賞という記録をつくる。その間には、お父様に続く「第2の師」といべき名ギタリスト・福田進一氏との出会いがあった。93年、現代ギター社が主催するセミナーで福田氏から指導を受けた中村さんは「耳のいい子だね」と賞賛され、そ

の日、村治佳織さんと共に公開レッスンの受講生に選ばれるという破格の扱いを受けた。技術レベルを超えた「音楽」そのものを感じさせてくれる福田氏の指導に、中村さんは自分の中で何かが変わってゆくを感じたという(福田氏は、今回のリサイタルのためにエッセイを寄せてくれるそうだ。追って芸術館ホームページ、当日プログラムに掲載します)。その後96年に第27回クラシカル・ギター・コンクールで第1位、97年に第40回東京国際ギター・コンクール第3位、2000年にはイタリアのミケーレ・ピタルーガ国際ギター・コンクール第3位と輝かしいコンクール歴を重ね、いよいよこの5月にギター文化館と水戸芸術館でソロ・デビューを飾るというわけだ。

プログラムはまず前半がソル2曲、ディアベリという古典作品の組み合わせ。「ギター界のベートーヴェンであり、古典の頂点(中村さん談)」であるソルと、むしろ「ギターというよりオーケストラのような」ディアベリの作品を組み合わせるあたり、

古典ギター音楽を多角的な視点からとらえる鋭い選曲である。そして後半は一転、アサド、プロウエルという20世紀中南米音楽を聴かせ、最後には「小学校の頃から弾いていた、自分の音楽の根源」であるバリオスの3曲で締める。「ここまでの自分の総決算。卒業試験のような気分です」と中村さんは笑うが、実に意欲的で考え抜かれた、しかも楽しめるプログラムだ。

イタリアのコンクールでは、中村さんの演奏をいつも熱心に聴いてくれた老婦人(実はその音楽祭の最後に名誉賞を受けた、地元の大家だったという!)から、アランフェス協奏曲の演奏について「魂を感じさせる」という激賞の言葉をいただいたという。前述の村治さんを始め木村大さん、大萩康司さんから若いギタリストの活躍が目立つ今、知名度こそこれからだが実力では一歩も劣らない中村さんのリサイタル、ぜひ多くの方々に聴いていただきたい!と心から思っています。

《矢沢》

21世紀を担う演奏家が、ここから生まれます。

4 / 28(日) 茨城の名手・名歌手たち 第13回
出演者オーディション

茨城県に関わりのある音楽家を広く紹介する企画「茨城の名手・名歌手たち」も、今年で13回目を迎えます。9月29日(日)に開催予定の演奏会に先立ち、4月28日(日)には出演者オーディションを開催いたします。4月10日で応募を締め切ったところ、43組の申込がありました。オーディションは入場無料で公開されますので、若き音楽家たちのフレッシュな演奏を聴きに、どうぞコンサートホールへ足をお運びください。

《関根》

4月28日(日) 審査スケジュール
13:00~17:00 エレクトーン、ピアノ
17:15~17:50 弦楽器
18:10~19:00 邦楽器、パイプオルガン

審査委員(五十音順・敬称略)
池辺晋一郎 高山三智子 田村拓男 畑中良輔 原田幸一郎
間宮芳生 三善清達

上記時間はおおよその目安です。
オーディションの進行によって変更することがあります。

アニメ・ソング、ディズニーの名曲、お馴染みのクラシック音楽などが登場！

5 / 4(土) 5(日)パイプオルガン・ブロムナード・コンサート
ゴールデンウィーク・スペシャル企画

親子で楽しむオルガン・コンサート

入場無料で週末にエントランスホールで開催しているブロムナード・コンサート。ゴールデンウィークのスペシャル企画として、大人も子供も家族皆でお楽しみいただけるプログラムをご用意しました。どんな曲が飛び出すか?その全貌は、当日のお楽しみです。ちょっとだけお教えしましょう。子供たちにエントランスでびよんびよん跳ねたりしながら聴いてもらいたいの、映画『千と千尋の神隠し』のテーマ いつも何度でも、そして『メリーポピンズ』をはじめディズニー・メドレーなど。そして、本格的で壮大なオルガンの演奏も聴きたい方のために、クラシックの名曲も準備しています。

出演は、すでにパイプオルガンの演奏家として本格的な活動を行っている、東京芸術大学の大学院(修士課程)に所属する山口綾規。彼は、ポップ・音楽の世界でも大活躍した電子楽器、ハモンド・オルガンの名手でもあります。軽快でノリの良い演奏が彼の演奏の魅力のひとつです。

楽しい連休のひとつときを、どうぞエントランスホールでお過ごしください。

《中村》

5月4日(土)1回目13:30~ / 2回目15:00~

5月5日(日)1回目12:00~ / 2回目13:30~

最近の公演から MARCH



1



2



3



4

合唱セミナー 2002(3月3日)

毎年3月に、茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催で開催している「合唱セミナー」。今回は、作曲家の新実徳英氏をお招きし、白いうた 青いうた を課題曲として取り上げた。中学生からお母さんコーラスまで、幅広い年齢層の方々が会場に詰めかけた。ピアノ伴奏は、すべて山田陽子氏。

午前中は、「夜と昼」「北極星の子守歌」「ぶどう摘み」の3曲を練習。開始直後の「夜と昼」では、参加者の身体も起き切っていないせいか、今ひとつテンポに乗り切れない。新実氏は、ベートーヴェン 交響曲第7番 第2楽章やシューベルト 即興曲変ロ長調 を引き合いに、「夜と昼」に使われている2拍子のキャラクターを分かりやすく説明。すると、それまで遅れがちだったテンポが、リズムよく保たれるようになっていく。「ぶどう摘み」では、モデル合唱団としてあひる会合唱団が、混声4部版で指導を受けた。

白いうた 青いうた は、クラシックのジャンルとしてはめずらしく、曲先行で作曲され、詞は後からつけられた。作詞者は、故 谷川雁氏。音楽の色合いにぴたりと合致した詞の素晴らしさについては、しかし、新実氏はほとんど触れなかった。「詞の解釈は個人個人で違っていいと思いますし、こういう場所で説明してしまうと味わいがなくなってしまうように感じます。」

午後は、「傘もなく」「火の山の子守歌」「なぎさ道」「ぼくという名のひとり」の4曲と、突然の追加で「しらかば」の練習。白いうた 青いう

た は、自由な2部合唱の作品のため、会場の真ん中で2パートに分けたり、女声と男声で分けたり、中学生・高校生と一般で分けたりと、参加者は様々な形態で歌うことを楽しんだ。また、モデル合唱団として、「傘もなく」では女声合唱団コロ・フィーノ(女声3部)が、「ぼくという名のひとり」ではコール・エリオ(女声3部)が、それぞれステージ上で指導を受けた。

異なる世代間で、歌う楽しみを共有できる「うた」が少なくなって久しい。しかし、白いうた 青いうた を歌い終えた参加者たちの表情には、共通のやさしい笑みがあった。このシンプルな歌と、それを楽しむ世代間を超えた人々のネットワークがさらに広がっていくことを願ってやまない。《関根》

中澤敏子ソプラノリサイタル(3月9日)

「茨城県内在住の演奏家による企画」シリーズで実現した、中澤敏子さんの人生で初めての独唱会。中澤さんがこれまで歩んできた声楽家としての半世紀の集大成とも言うべきリサイタルでした。プログラムはすべて長年研究を重ねてきた日本歌曲。山田耕筰や信時潔から現代の作曲家の作品、果ては邦楽の作曲家・宮城道雄にいたるまで、中澤さんは、1曲ごと丁寧な歌い分けながら、味わい深い歌唱を披露しました。音楽教師、合唱部顧問、声楽指導者...と、指導的立場に居ながらも、同時に多くの声楽家からのアドヴァイスを自分のものにしてきた中澤さん。彼女の歌の深みは、様々な先生から教わった



技術ばかりでなく、その先生と共にいた思い出と強く結び付いて生まれたのだ、と思えてなりません。また、ピアノ伴奏の塚田佳男さんはじめ、姉妹共演をはたした朗読・中澤敦子さん、箏・吉田美菜子さん、尺八・横田鈴琥さんという共演者がこの日のリサイタルをいっそう彩り豊かなものにしてくれました。

アンコールは成田為三 かなりや、そして客席から受け取った一輪の花を手に 山田耕筰 からたちの花。中澤さんは最後まで私たちの心に響く歌声を聴かせてくれました。《松田》アンケートから 何かすばらしい「気」をいただいた様です。先生のたゆまない御精進が、今日のすごいコンサートを生んだと思います。(那珂郡:M O さん) 素晴らしいです!! 70才を越えられてあの声...ただただ魅せられました。生きる力を沢山、沢山いただいたように思います。最後は何故か涙が止まりませんでした。(水戸市:無記名の方) 私は水戸二高で音楽を中澤先生に教えていただきました。高校生活は十数年前。なのに中澤先生つたらあのころとちっとも変わらずの声。ちゃめっ気もちっとも変わらず、思わずクスリと笑ってしまいました。とても楽しいひとときでした。(M.Y さん)

畑中良輔の 日本のうた セミナー

「信時潔・弘田龍太郎」(3月10日)

第1回、第2回と山田耕筰に的を絞って研究してきた日本歌曲の公開セミナー。第1期最終回のこの日は、彼と同時代に活躍した信時潔と弘田龍太郎の作品を取り上げました。信時潔について、講師の畑中良輔は、「R. シュトラウスやヴォルフといった後期ロマン派の技法を活用した山田耕筰に対して、信時潔は古典派、特にベートーヴェンの影響を強く受けている」と解説。また、弘田龍太郎については、「日本に古くからあった、ドレミソラドの5音階をよく用いました」と、弘田独特の美しくしかも親しみやすい旋律の理由を解き明かしてくれました。この日、鼻風邪をおしての登場となった畑中講師でしたが、それにも負けず熱の入った指導を展開。そして、それに応えようとする受講生の真剣な表情もまた印象的でした。ミニコンサートでは、ゲストの松井康司さん(バリトン)が、ホールを包み込むような豊かな響きで信時、弘田両作品を披露。アンコールには弘田の最も有名な童謡のひとつ 浜千鳥 が歌われました。

3回にわたってお送りしてきた第1期のセミナー。「日本のうた」の輪が広がっていくかのように、足を運んで下さるお客様が少しずつ増えてきました。第2期は山田耕筰(9月14日)、橋本国彦(12月7日)、平井康三郎(3月15日)の3

人の作品を研究します。これからも「畑中良輔の 日本のうた セミナー」にご期待ください!

《松田》

アンケートから 3回みせて戴きました。畑中先生のお話・指導、楽しく素晴らしいものでした。それでも、私が一番感動したのは各回ともに受講生の熱意、意欲です。一生懸命うたっておられる姿はそれだけで何より勝るステージでした。(那珂町:H.T.さん) 歌曲の持つ深い意味、作曲者、作詩者の心を読みとって大切に歌うことをよくよく知らされた思いです。松井さんの叱られては、胸にじーんとしみ、涙がでました。(江戸崎町:K.S.さん)

野平一郎+永野英樹 ピアノ・デュオ

(3月21日)

野平一郎と永野英樹 フランスの現代音楽シーンと深い関わりをもち活動行方両者の初めてのデュオ・コンサートが、水戸芸術館で実現した。仕掛け人は、水戸芸術館音楽部門の企画運営委員で作曲家の間宮芳生。間宮が選んだプログラムは、メシアン:アーメンの幻影/ストラヴィンスキー:ペトルーシユカ/バルトーク:2台のピアノと打楽器のためのソナタ、といういずれも20世紀音楽の傑作だが、野平、永野の敏腕ぶりが大いに発揮されるような難曲ばかり。多忙を極める2人のピアニストであるが、通常のコンサートでは考えられないほどの多くの時間がリハーサルのために費やされた。彼らの演奏がいかなるものであったかについては、熱い声がたくさん寄せられた以下のアンケートをご覧ください。また、バルトーク作品では、パーカッションの永曾重光と松倉利之が出演、ダイナミックな演奏を披露してくれた。《中村》アンケートから 「ATM常連の皆様、食わず嫌いはいけません。」現代音楽と称されるジャンルを敬遠していた私ですが、「アンサンブル・モデルン」「内田光子とその仲間たち」そして「今日のコンサート」を聴き、新しい世界を識るようになりました(友の会LD鑑賞会の ヴォツェック も)。ピアノという楽器が表現できる世界はこんなにも凄いのだ、と興奮気味です。超絶技巧=エキサイティング=美しく楽しい。(日上市:こうのどりさん) いい演奏で、メシアンの曲を聴いていると、空から金色の紙吹雪が舞い降りてくるような気がするのですが、今回の演奏でも初めの方ですすでにそれが感じられました。そして、ピアノの音のキレが素晴らしい!(千葉県山武郡:T.K.さん) 生活費がとても危ない! そんな時、どーしても、どーしても聴きたくて来ました。食費1,000円で生きていけます。よかったです!(M.I.さん)



*nettama= ネットワークする猫、タマ。
芸術館のコンサートをサカナに
いろんなところへnettamaします。

「ネットタマネット」開設! このURLへどうぞ

2冊の「自伝」(前編)

4月は学校や自治体の「新年度」がはじまる時期。僕の周りにも人生の岐路にまつわるさまざまなドラマがあった。そんな中で特に印象に残ったのは、それぞれ音楽を目指す2人の18歳の姿だ。ひとり、もう中学生の頃から芸術館に入りびたり(笑) いろんな企画に、聴き手としても演じ手としても参加しつづけてきた女の子。彼女はみごとに音大の指揮科をクリアし、この春から東京での新生活を始める。こないだ同じ高校の仲間たちとやってきて、担当YやBさんにあいさつしていた。新しい環境の中で思い切り勉強できる喜びと希望に燃えた彼女は、髪にパーマをかけ、もう「女の子」ではない、大人の顔をして前を見据えていた。にしても、こうして感慨にふける僕の横で「ほんとうに、大人になりましたねえ...むほほほ」とだらしく相好を崩しているYは天誅ものだ。ネコキック20発!

一方、ずっと学んできたピアノで大学を受験したが挫折した男の子が、芸術館に「今後音楽の仕事に関わっていく為にはどうしたらよいか」と相談に来た。女性でないということは何やかやと理由をつけて逃れようとするバカ男Yの代わりに、僕が変身して話を聞きに行った(Y、あとでカルカン30缶だぞ!)。自分を表現するための必須の手段に対しいわば「No」をつきつけられた彼の目は暗く、袋小路の中でさまよっていた。悩みの時期がまだしばらくは続くだろう。けれども、「自分は音楽を通じて何がやりたいのか、何ができるのか」という問いの繰り返し、必ずや活路を開いてくれるに違いない。がんばれ!

さて、人生の大きな転換点に立つ若い人たち(わしも「若い人」とか言うようになったのじゃ

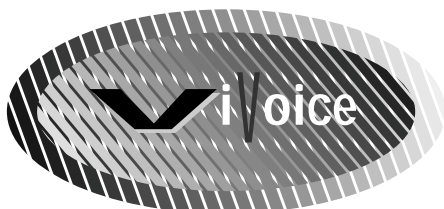
のう)の姿を見ていたら、音楽を人生の天職とした人々が、どんな青年時代を送ったのか、無性に知りたくなってきた。それにもしかしたら、こうした本に出会うことは、「これから自分はどう音楽と関わってゆこうか」と考えている人たちにとって、とてもたいじな経験になるんじゃないか、という気もするので、紹介したい。まず芸術館の館長である吉田秀和の本。吉田秀和の著作は白水社の全集(現在16巻まで刊行中、バラでも買える)に体系的に収録されており、長い時代にわたるさまざまな著作を読めばそのまま吉田秀和という評論家の思考の軌跡を体験できるわけだがここでは第15巻「カイエ・ド・クリティク」に収められた『自伝抄』を挙げておきたい。これは1980年に読売新聞の依頼によって書かれたものだが、ありがちな歴年体の自伝ではなく、各章が「日本橋 国旗と花電車」「小樽 雪」「ブラハ 六八年春」「ネパール 生と死」という具合に、著者が滞在したり訪れたりした様々な都市の記憶を「フラッシュのように」閃かせながら、その時に思ったり考えたりしたことをつづけてゆく、という形式をとっている。だから、各章はある程度歴史順に進んで行くが(本当は「トランプのカードをきるように」順番をシャッフルしたかったが編集部への要請でかなわなかったそうだ)その記憶は別の時代の記憶を呼び覚まし、また現在の中に戻って行く。たとえば「日本橋」の章ではまず、著者の子どもの頃の記憶が語られる。今よりもずっと暗い東京の夜、その中をゆっくり歩いてゆく路面電車。それは花や電球や万国旗で飾り立てられ、正面には日本と英国の国旗が交叉して立てられていた。その光景を著者は回想しつ

つ「あのころ私たちは、国旗をみても、現在のよように屈折した思いに陥らずにすんだ」とつぶやく。このひと言に、その後日本がたどった激動と混乱の歴史が、そしてその中を生き抜いてきた人間の重い感慨が凝縮されている。そして国旗を通じて、68年「ブラハの春」の最中にチェコを訪れたときの情景へと、記憶と思考は連鎖して行く。

こうした手法はブレストの小説『失われた時を求めて』を思わせるだろう。最近だったら、クリント・イーストウッドが監督したチャーリー・パークのすばらしい伝記映画『バード』に見られた複雑な記憶の再構成の手法を思い出してもいい。こうした作品に出会うとき、僕たちは、人生はただ一方向に死に向かって進んでゆくのではなく、現在は過去を呼び覚まし、過去は現在を刺激する、その相互作用の中で豊かになってゆくものだ、と知る。たぶん、どんな瞬間も、たとえどんなに自分が袋小路の中でもがいているときでも、そこに「無駄」ということはないのだ、そう意識さえすれば。

もう一冊、畑中良輔『音楽少年物語』(音楽之友社)についても語りたかったのだけれど、字数がつかたので、次号で。

吉田秀和全集
白水社



3月21日、野平一郎・永野英樹ピアノ・デュオのアンケートに、「譜めくりが目ざわりである」というご意見がありましたので、ここで譜めくりについてご説明させていただきます。たしかに今回は、出演する奏者4人が全部男性という濃密な世界(?)に女性2人が登場というわけで余計目立ってしまったかもしれません。しかし、暗譜が一般的なソロや協奏曲の場合ならともかく、今回のよう

なアンサンブルや歌曲伴奏の場合、ピアニストはアンサンブルを成立させるために、相手のパートも熟知している必要があります。そのためピアニストはピアノ・パートのみならず、相手のパートも書かれているピアノ譜を見て演奏します。このピアノ譜は音符の数が圧倒的に多いため、ピアニストが自分で譜めくりをするタイミングがなく、アシスタントが必要になるというわけです。特に今回のような「ずれたらすごく目立つ」ピアノ・デュオ、かつ難曲ぞろいの演奏会の場合は譜めくりにかかる労力もたいへんなもので、今回担当した1人である音楽部門のB(音大卒のピアニスト、茶髪)は演奏会の10日以上前から毎晩楽譜と首っ引きでCDを聴いて勉強していました(本人いわく「こんな恐ろしい譜めくり体験は初めてだった」)。バルトークの曲など、譜めくりのタイミングがほんの0.5秒でもずれたら、

アンサンブルが崩壊しかねないのです(観客にピアニストが背中を向ける配置もよけい譜めくりを目立たせたかもしれませんが、あれはバルトーク自身の指定)。そのようなわけで、「譜めくり」も奏者の一人」として楽しんでいただければ幸いです。

《矢沢》

Petite情報

MCOメンバー 工藤重典が5月14日(火)佐川文庫にてリサイタルを行います。お問い合わせは同文庫(TEL029-309-5020)まで。専属楽団メンバーが頻りに登場する同文庫の演奏会シリーズにご注目を!(3月にも加藤知子が登場しています)

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029 - 231 - 8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029 - 227 - 8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

茨城県在住の演奏家による企画を募集します
平成15年度の茨城県在住の演奏家による演奏会企画を下記の要領で募集いたします。

【応募要項請求方法】(1)直接水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター(9:30 - 18:00 月曜休館)までご来館いただく。(2)80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛てご郵送いただく。(3)下記宛てFAXでご請求いただく。【応募対象】茨城県在住の音楽家または団体。ただし、平成13年~14年度と連続でご出演された方は応募できません。【受付期間】2002年5月22日[水]~6月5日[水]【当日必着】【結果の発表】2002年8月頃【開催時期】平成15年度(2003年4月~2004年3月)【提出資料】(1)所定の申し込み用紙(2)これまでの演奏歴を示す資料(演奏会チラシ等)(3)住民票の写し(4)2002年1月1日以降の演奏のデモ・テープ(またはDAT、MD)【問い合わせ先】〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係 TEL029-227-8118 FAX 029-227-8130(担当:矢沢)

チケット・インフォメーション 4月27日(土)発売分.....

パブロ・カルテット
7/6(土)18:30開演 料金(全席自由):¥3,000
グローブ座の音楽家たち シェイクスピアの音楽
7/12(金)19:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000
B席¥3,000 C席¥2,000 ペアチケット(A席50組限定)¥7,000
加藤直子 ヴァイオリン・リサイタル
7/21(日)14:00開演 料金(全席自由):¥2,500

発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、全席指定の公演では1公演あたりお1人様1回につき5枚までとさせていただきます。

これからの演奏会・残席情報.....

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

アンジェラ・ヒューイット ピアノ・リサイタル
5/12(日) ...中央、左右・裏
茨城演奏家連盟会員によるアーリー・サマー・コンサート
5/17(金) ...自由席
ヴァーグナーの祭典 オペラの花束をあなたへ 14
5/19(日) ...中央、左右・裏
中村 創 ギター・リサイタル
5/26(日) ...自由席
水戸室内管弦楽団第49回定期演奏会
6/8(土)...中央、左右・裏 6/9(日)...中央、左右・裏
水戸室内管弦楽団第50回定期演奏会
6/26(水)...完売 6/27(木)...完売

4/7(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

DM継続ご希望の方はご連絡ください.....

先月号でもご案内いたしました。音楽部門では、ダイレクト・メールを今後も継続して希望される方にご連絡をお願いしております。まだご連絡いただけていない方は、先月のDMに同封のアンケートはがきをご返送いただくか、直接水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターまでお持ち下さいようお願いいたします。アンケートはがきを紛失された方は、官製はがきに(1)お客様コード(2)お名前(フリガナ)(3)お電話番号(4)ご住所をご記入の上、〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 「水戸芸術館 音楽部門 DMアンケート係」宛てお送り下さい。

水戸芸術館5月のスケジュール

コンサートホールATM

アンジェラ・ヒューイット ピアノ・リサイタル
5/12(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000
茨城演奏家連盟会員によるアーリー・サマー・コンサート
5/17(金)18:30開演 料金(全席自由):¥2,000
ヴァーグナーの祭典 オペラの花束をあなたへ 14
5/19(日)17:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000
中村 創 ギター・リサイタル
5/26(日)14:00開演 料金(全席自由):¥2,500

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート
5/18(土)13:30/15:00 5/25(土)13:30/15:00
ゴールデンウィーク・スペシャル企画 親子で楽しむオルガン・コンサート
5/4(土)13:30/15:00 5/5(日)12:00/13:30
宴や夜市(泉町商店会)関連企画
5/24(金)18:00
入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

劇団唐組新作水戸公演『糸女(いとじょうろ)』
5/10(金)19:00開演、5/11(土)19:00開演、5/12(日)19:00開演
料金(全席自由):一般¥3,000 団体(10名以上)¥2,700 学生¥1,500
会場:水戸芸術館広場特設紅テント
第35回水戸市芸術祭「謡と仕舞の会」
5/26(日)10:00開演 入場無料

現代美術センター

スクリーン・メモリーズ
4/13(土)~6/9(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜ただし5/6(月)は開館、5/7(火)は休館
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、心身障害者の方は無料

茨城の主な5月の演奏会

佐川文庫 TEL/029(309)5020 佐川文庫サロン・コンサート 工藤重典 フルート 5/14(火)18:00開演
茨城県民文化センター TEL/029(241)1166 ウィーン少年合唱団 5/3(金)14:00開演
ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122 ひたちなか交響吹奏楽団第6回定期演奏会 5/12(日)14:00開演
(問)ひたちなか交響吹奏楽団 090-2757-0298
日立シビックセンター TEL/0294(24)7711
第11回 ひたちの春音楽祭 プラスのひびき 5/5(日)10:00開演
マラソン演奏会 5/5(日)13:30開演 日立市民吹奏楽団第20回定期演奏会 5/12(日)14:00開演 ピアノアンサンブルコンサート 5/19(日)14:00開演
日立交響楽団第94回定期演奏会 5/26(日)14:00開演
ギター文化館 TEL/0299(46)2457 吉川二郎コンサート フラメンコリサイタル 5/3(金)15:00開演 中村 創 ギター・リサイタル 5/4(土)15:00開演
井上 學・富山幸男ギター・ジョイントコンサート 5/5(日)15:00開演 ギター文化館運営ボランティア「ギターを愛する会」コンサート 5/6(月)15:00開演
ノバホール TEL/0298(52)5881 マレイ・ペライア&アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ演奏会 5/11(土)19:00開演

水戸芸術館音楽紙[ウィーヴォ] 2002年5月発行 第81号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵

松田善幸 矢沢孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号はMCO特集!
第50回定期「未定の1曲」の謎がとける!...かも?